



町長コラム

# ベア・パル



## リフノスのパンセ

リフノスは「地中熱を利用した空調システムの補助金を申請してみたい」と職員が相談にきてから本格的に動きが見えてきたと思います。形が見えるまでは苦勞も多く、鉄骨不足が深刻化した際は補助金の期限があり、もう少し待ってくださいと国交省に頭を下げに行きましたし、入札も不落を経験し、更なる経費がかかりました。もちろん環境省にも行きました。途中コロナ禍で資材が入らない事もしばしば。総額54億円。当初の設計額はもっと低かったのですが、震災以後の労務単価急騰、土地の買収、物価高、消費税増等を経て、まさに難産の末、誕生しました(外的要因だけで片付けてはいけないと肝に銘じています)。

運営コストは年間約2億円と試算されていますから、コストを上回る喜びを利用者の皆様と共に作り上げ、プライスレスな価値を生み出したいと思ひます。創作意欲に刺激を与える観光大使荒川静香さんの物語や絵本も用意し、料理、陶芸、歌、踊り、勉強、音楽など、各種活動を通して生きる活力を躍動させてほしいと思ひます。

昨夏「こちら町長室(小学生役場見学ツアー)」でも建設途中のリフノス内部を見学しました。いわゆる「ハコモノ」を子どもたちの目でしっかりと見てもらい、利府町の将来を担う児童に今後の運営やかかわり方を学んでもらいたいと思ひました。そう、リフノスの役割は、自ら学び、自ら考え調査し、自ら行動を起こし参画する「場」を提供する事。一人一人が主体的に主人公となり、新しいものが生まれる場所。それが利府町の文化であってほしいし、その文化は人間らしく生きる根源であってほしいと思ひます。

「人間は考える葦である」とは哲学者パスカルの随筆『パンセ』に書かれた箴言しんげんですが、リフノス(利府の巢)の命名の思ひもそこに尽きます。私は、新しい利府文化が生まれうる、自由にパンセ(思索)できるゆりかご、「リフノス」のグランドオープンにわくわくしています。

利府町長 熊谷 大

利府町

# 地域おこし協力隊がゆく! てきか

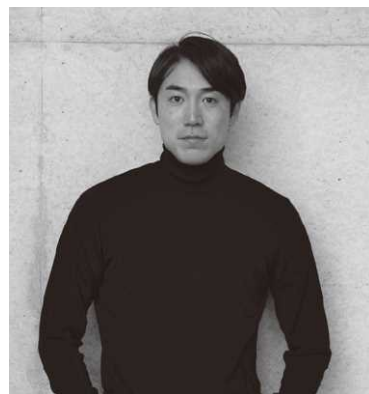
## No.26 甘く大きい利府梨を作る重要作業「摘果」とは?!

梨の「摘果」は題名にもある通り、立派な利府梨を作るための重要な仕事です! 複数の果実を間引き、1つの実になんがが行き渡るようにすることで甘く大きな果実を作ることができます。

さらに、摘果をしながら梨の天敵である黒星病等の点検も行います。この病気がつくと、果実に黒い斑点が付き、売り物にならなくなってしまいます。

先日、摘果作業を町民の方々が有志で手伝って下さいました。もし、梨作りや農業に興味がある方がいらしゃいましたら、一緒に農作業してみませんか? 緑の中で体を動かすとストレス解消になりますよ。

来年、利府町で梨農家として独立予定のため、梨園に遊びに来ていただくだけでも大歓迎です!



おうみ たかひき  
地域おこし協力隊 近江 貴之



たかひき@大企業から利府梨作り



ohmi0921

利府梨や梨カレー作りなどをブログで発信  
「元新宿サラリーマンのトカイナカ暮らし」

利府梨 たかひき

検索

